

平成29年度町政懇談会議事録

- 1 日 時 平成29年11月4日(土) 10:00~11:15
- 2 場 所 柏崎文化会館アルフォーレ 大会議室(新潟県柏崎市)
- 3 出席者 伊澤町長、金田副町長、舘下教育長、舶来総務課長、平岩復興推進課長、猪狩建設課長、松本住民生活課長、板倉秘書広報課長、
- 4 町民出席者 8人

5 町長あいさつ概要

9月15日に帰還困難区域の復興に向けた「双葉町・特定復興再生拠点区域復興再生計画」が内閣総理大臣の認定を受け、双葉町でも除染・解体・インフラ復旧等、復興に向けた動きが本格化する。一日も早い帰還環境の整備に向け、計画に基づく取り組みを早期かつ確実に進めていく。世代を超えて住みたいと思える魅力ある良好な生活環境の創出につなげていきたい。

○町内復興の取り組みについて

- 1) 中野地区復興産業拠点は、今年3月の都市計画決定後、地権者の方々に用地の協力をお願いし、町として事業の詳細を詰め、7月21日に福島県から事業認可を取得した。まずは働く拠点を整備し、町内の昼間人口の拡大を図ることにより、小売、飲食、その他民間の立地を誘発し、町復興のさきがけとしたい。
今後、整備事業の着実な推進を図るため、独立行政法人都市再生機構を活用し、今年度における工事着手、平成30年度における一部供用開始に向け整備を進め、町内事業者の事業再開に向けた立地支援と企業誘致にも取り組んでいく。
- 2) 東日本大震災の大津波により壊滅的な被害を受けた海岸堤防の災害復旧工事が福島県により工事が進められており、平成30年度の完成を目指していたが、2つの工区のうち双葉中浜工区については、平成31年度完成予定となる見通し。
- 3) 海岸防災林については、平成32年度の完成を目指し、クロマツ、アカマツ等を植栽する計画。
- 4) 復興祈念公園については、本年5月に福島県により都市計画決定され、今年7月に「福島県における復興祈念公園基本構想」が策定された。今後は、基本計画が平成30年度中に策定される予定。
- 5) 寺沢地区に設置される復興ICについては、今年6月に着工式が行われ、工事が進められている。平成31年度末に完成予定。
- 6) 復興まちづくり計画(第二次)に記載された施策を具現化させる取り組みとしては、9月5日に、平成29年度第一回復興町民委員会を開催。今年度は、施策のさらなる具現化を進め、年度末に予定している実施計画の改定に反映していく。また役場職員の検討組織として復興まちづくりワーキンググループをつくり、議論を進めている。

○中間貯蔵施設について

- 1) 県内で発生した除染廃棄物の昨年度末までの実績は、町内に確保した保管場へ約

10万m³が搬入され、今年度は、9月26日までの実績が約9万9千m³。
搬入元については、平成27年度は県北、県中、浜通りの20市町村から、平成28年度以降は、県北地方、双葉町以北の浜通りの15市町村となっている。

- 2) 用地の契約件数は、9月末時点で、中間貯蔵建設用地全体で、契約者が1,139人(48.3%)、契約済面積が約624ha(39%)である。今後も環境省に対して地権者への丁寧な説明を引き続き強く求めていく。

○生活サポート補助金について

町民の皆さんが10年間の経済負担を少しでも軽減できるよう運用する「中間貯蔵施設整備等影響緩和補助金」いわゆる「生活サポート補助金」が昨年度から事業を開始し、9月末の平成28年度の受給率は66.3%となっている。引き続き受給漏れのないように対応策を講じていく。

○復興公営住宅について

福島県が整備を進めているいわき市勿来酒井地区に建設中の復興公営住宅は、現在、集合住宅の建築工事が進められている。木造戸建て住宅についても10月中旬に工事に着手した。今後も平成29年度のできるかぎり早期の入居が可能となるように県に強く働きかけていく。

○医療費の一部負担等の免除、高速道路通行料金について

現在、無料措置が実行されているが、高速道路通行料金については、平成32年3月31日まで無料措置の延長の方針が示され、利便性の向上のため「ふるさと帰還通行カード」を導入した方法に変わるとの報告を受けている。詳細が決まったら、町民の皆さんにお知らせする。医療費の一部負担等の免除についても引き続き継続されるよう国、及び関係機関に働きかけていく。

6 町からの説明

- (1) 町立学校の状況等について(館下教育長)
- (2) 双葉町復興まちづくり計画(第二次)、特定復興再生拠点区域復興再生計画、平成29年度住民意向調査について(平岩復興推進課長)
- (3) 中間貯蔵施設計画地内町有地の取り扱いについて(猪狩建設課長)
- (4) 町共同墓地について(松本住民生活課長)

7 懇談概要

(町民：男性)

現在、柏崎の借家に住んでいる。家賃賠償について東電に問い合わせたところ、来年の3月までしか賠償しないという話があった。その後の家賃対応について町としてはどうしていくつもりか。

(伊澤町長)

家賃賠償については、まだ全町避難が継続しており、他の避難指示を解除した自治体と全くおかれている状況が違うため家賃賠償を終えるというのは町として当然ながら認めることはできない。国や東電に強く申し入れをしており、交渉は現在も継続中で

ある。

(町民：女性)

お墓について、先祖のお骨を避難先に持ってきて供養したいと思っているが、いつ頃出せるのか。

(松本住民生活課長)

お骨を取り出す時に東電で線量を測ることになるが、13,000cpm を超えていると持ち出すことはできない。線量を測る場所だが、スクリーニング場ではなくお骨を取り出した時点(お墓の前)で測ることになる。希望があれば東電にお願いして日程調整しながら進めていきたい。

(町民：男性)

自宅の家屋の解体について聞きたい。

(伊澤町長)

まずは家屋調査をしていただかないと進められないが、解体するエリアの優先順位がある。特定復興再生拠点が第一段階、それ以外の場所に関しては順次対応となる。また、皆さんの希望に合わせて、家屋を残したいという方はそれも出来るし、解体を希望する方は、個人負担のないような取り組みを国と交渉していきたい。

(町民：女性)

双葉から避難するときに軽トラックを勝手口の前に置いてきた。それが自宅前の田んぼの仮置き場の邪魔になっているからどかしたいと役場から電話があった。それはいいのだが、車も賠償をもらっているし、私の車ではなく、「東電のもの」という扱いではないのか。今後の処分はどうなるのか。

(猪狩建設課長)

町内のいたるところに同様の放置車両があるが、環境省がいずれ所有者に確認して片付けることになる。

(町民：女性)

健康診断について、福島医大に書類を送って、返送を受けてそこから診断を受けることになる。その辺りをもう少しスムーズに出来ないのか。また、受診できる期日が指定されており、都合が悪くなって行けなくなる可能性もある。こちらの都合の良い日に受けることはできないのか。

個々の病院で対応が難しければ、新潟県内のいくつかの病院で書類を出さなくても受診できるような仕組みづくりは出来ないのか。歳をとってくると書類を書くのが面倒になってくる。

(金田副町長)

簡素化できるかどうかご意見として承り、内部で検討したいと思うが、行政として個別ごとに対応するのは難しい面もあるのでご理解願いたい。

(伊澤町長)

中間貯蔵施設に係る町有財産の取り扱いについては、建設課長から説明があったとおり中間貯蔵施設を最終処分場にしないためにも、中間貯蔵施設の約25%を占める町有地に

については、国へ売却ではなく、地上権を設定し賃貸借という方法をとりたいと考えているが、それでよろしいか。ご意見を伺いたい。

—意見等なし—

それではこの考え方に納得された方は拍手をお願いしたい。

—拍手多数—

(伊澤町長)

了承いただいたと受け止める。